

# 中央区内景气动向调查

平成 29 年 6 月調査結果

平成 29 年 7 月 21 日

中央区

— 総 括 —

平成 29 年 6 月の動き

中央区内における 6 月の現状判断 D I は合計で 50.5 と、前回調査から 2.6 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 49.0 と前回調査から 2.0 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成29年			前回調査 からの変化
	2月	4月	6月	
合計				
現状判断D I	48.5	53.1	50.5	(-2.6)
先行き判断D I	55.1	51.0	49.0	(-2.0)

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 29 年 6 月調査の調査票発送は 6 月 7 日（水）、回答期限は 6 月 16 日（金）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 50 名、有効回答率は 100.0%であった。

### 7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0



## 2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で49.0と前回調査から2.0ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは51.0と、前回調査から1.1ポイント低下し、企業動向関連DIは47.0と、前回調査から3.0ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が13.3ポイント減少し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が7.7ポイント増加した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

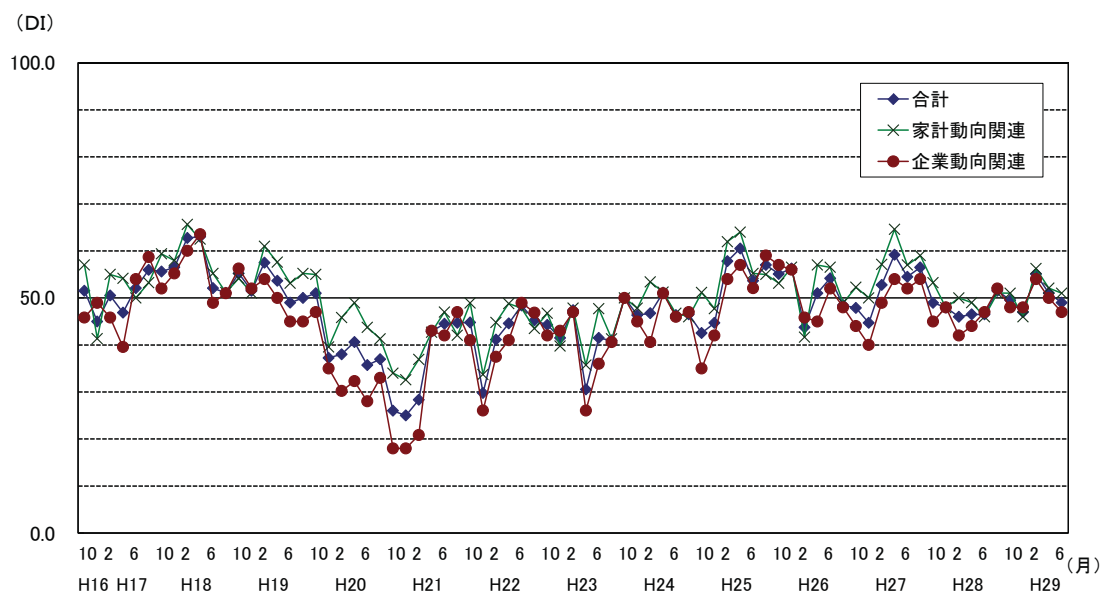
(DI)	平成29年			
	2月	4月	6月	(変化幅)
合計	55.1	51.0	49.0	(-2.0)
家計動向関連	56.3	52.1	51.0	(-1.1)
小売関連	54.2	45.8	48.1	(2.3)
飲食関連	—	—	—	(—)
サービス関連	57.1	60.7	64.3	(3.6)
住宅関連	—	—	—	(—)
企業動向関連	54.0	50.0	47.0	(-3.0)
製造業	58.3	41.7	33.3	(-8.4)
非製造業	52.6	52.6	51.3	(-1.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成29年	2	0.0%	32.7%	55.1%	12.2%	0.0%
	4	0.0%	20.4%	63.3%	16.3%	0.0%
	6	0.0%	24.0%	50.0%	24.0%	2.0%
(変化幅)		(0.0)	(3.6)	(-13.3)	(7.7)	(2.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3－1 各分野における景気の現状水準判断DIの推移

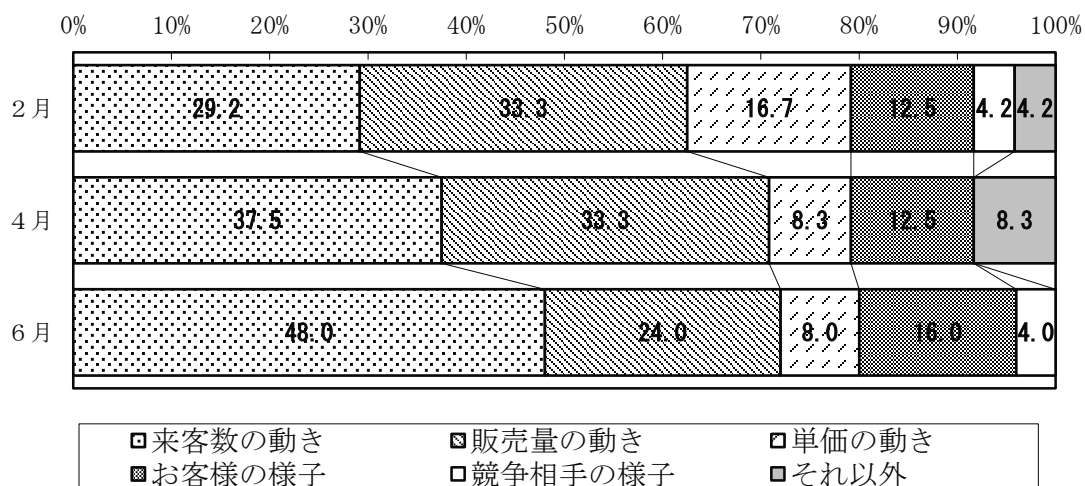
(DI)	平成29年		
	2月	4月	6月
合計	45.4	55.1	48.0
家計動向関連	43.8	57.3	48.0
小売関連	47.9	56.3	51.9
飲食関連	—	—	—
サービス関連	46.4	64.3	46.4
住宅関連	—	—	—
企業動向関連	47.0	53.0	48.0
製造業	50.0	58.3	37.5
非製造業	46.1	51.3	51.3

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

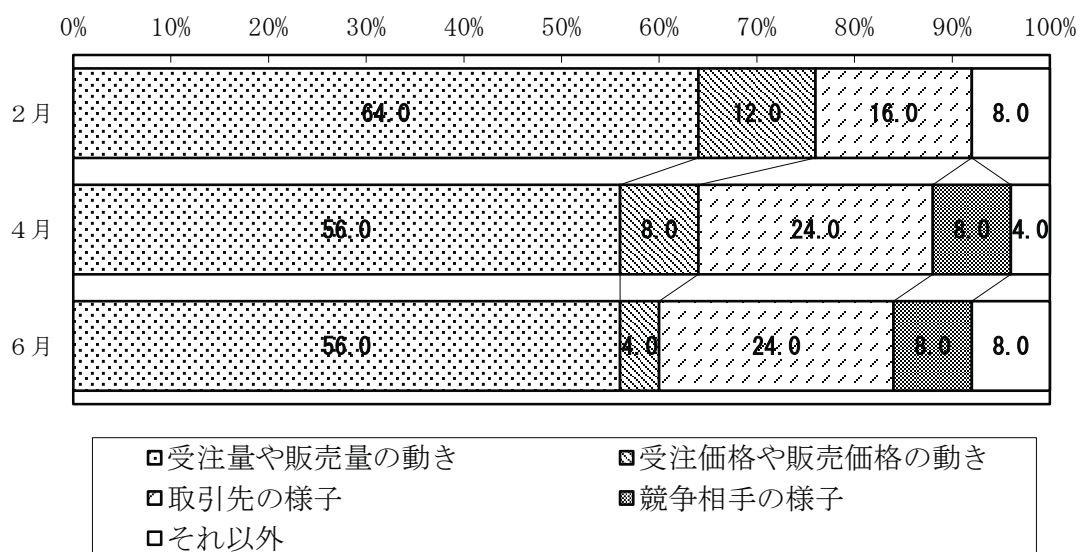
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	単価の動き	・高級筆記具の売上が伸び、単価上昇に結び付いている。また、訪日外国人客の単価上昇も目立つ。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・外国人観光客が3か月前より増加傾向にある。新しいマンション入居に伴い、30~40歳世帯が増えてきている。
		衣料品専門店(店長)	競争相手の様子	・競合の数字、全館としても前年超えとなっている。
	変わらない	百貨店(総務担当)	来客数の動き	・訪日外国人客は別として、国内客の来店、買上が弱い。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・特選衣料雑貨、宝飾品などの高額品の他、紳士婦人雑貨、食料品の売上が順調に推移している。一方、紳士服、婦人服は伸び悩むなど、全体としては充実感が欠ける。
		百貨店(広報担当)	単価の動き	・購買客数は104%ながら、客単価は97%にとどまっている。主力の衣料品や宝飾品が伸びないため、先行きについては引き続き慎重な見方である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今月も来客数、インパウンド売上共に前年比で95%前後で推移している。商業施設のリニューアルオープンが続いているが、影響はそれほどでもない。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・ランチタイム、ディナータイム共に来客数が増加している。近隣での超高層オフィスビル増加に伴ってのことと考えられる。客層の高齢化により、量より質の傾向がはっきりみられる。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・3月は春休み前後で非常に忙しく、それに伴い全体的に忙しかった。それと比べると、4~5月は来客数がやや減っているが、トータルでは変わらない。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・周辺に同業他社がかなり増え、パイの奪い合いとなっている。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・移動や移転の時期も終わり、主要商品の販売数に変動が見られない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔食品〕(店長)	お客様の様子	・例年ゴールデンウィーク明けは儉約気味である。20日以降一時的に回復したものの、6月に入り景況感が下降気味である。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・商業施設の新規オープンなどの話題性により、4~5月の来客数は伸びているが、賞味期限は短いので、そこがピークとなりつつある。
その他レジャー施設(経営者)		来客数の動き	・5月は休日が多かったことから、やや悪くなっている。また、客層に年金生活者が多いため、孫にお小遣いをやり、自分は辛抱しているようである。	
悪くなっている				
企業 動向 関連	良くなる	その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・5月は母の日があり、年内最大の繁忙期であったので、相当な量の受注があった。
	やや良くなっている	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量や売上額が、少しではあるが上向いてきている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・5月の受注が前年を上回った。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	それ以外	・納品及び売上計上は少し先になるが、受注はできている。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	競争相手の様子	・現場作業員の高齢化により、業務を受けきれていない同業者も増えてきているため、仕事がこぼれてくる可能性がある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	新聞業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新聞広告収入は前年割れが続いている。業種により広告出稿量、金額は高低があり、好調な業種も散見されるが、全体的に低調の感は拭えない。6月の第1四半期締め、ボーナス商戦にも期待したいが、不透明である。
		出版業（経営者）	それ以外	・大企業は潤っているが、零細企業は悪戦苦闘している。
		出版業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・広告企画が採用されても、当初の見積金額より値下げさせられたり、サービスページを要求され、実質的には受注額がかなり下がっている。
		建設業（営業担当）	競争相手の様子	・受注に関しては、競争相手も特に変化がない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前回と大きな変化はない。
		不動産業（企画担当）	取引先の様子	・オフィスマーケットは引き続き堅調で、平均賃料も上昇傾向を維持している。マンションは供給戸数が減少しているものの、初月成約率は70%まで回復している。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同月と比べて特別変化はない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・在庫がなかなかはけないようである。良くもなく、悪くもなく、特段変わらない様子である。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	取引先の様子	・景気が上向いている要素はなく、これまでどおりで推移している。
		やや悪くなっている		印刷業・製本業（営業担当）
印刷業・製本業（経営者）	受注量や販売量の動き			・地方の印刷会社が安値で受注をしている。
印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子			・新年度に入り、安値受注が目立ってきている。
悪くなっている		-	-	-

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(-：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・良質な訪日外国人客が安定して来店し、高額商品を購入している。株価の高値安定も好材料である。
		百貨店 (広報担当)	・5月下旬の高温時期から、夏物商材の動きが活発化し、現在も継続しており、足元では前月比101%となっている。長期予報では今夏は高温が続くとのことなので、予報どおりであれば夏物が一段と動く可能性がある。
		衣料品専門店 (店長)	・東京オリンピックに向けて、施設、サービス内容が増加、変化してくる。
		高級レストラン (経営者)	・都議会選挙が終わると、7月はその影響による客が多くなる。7月の好景気予測も、8月に入るといったん夏の閑期となるが、9月には再び上昇するとみている。
		通信会社 (営業担当)	・ボーナス支給に伴い、売上が伸びることが予想される。
		競馬場 (職員)	・大口購入客が増えている。
		その他レジャー施設 (経営者)	・昔と違って休日が多いので、当社のような商売は都心ではやりにくくなっている。5月、8月は休みが多い月だが、秋になれば幾らか良くなるのではないかと期待している。
	変わらない	一般小売店〔靴〕 (店長)	・政治に不安感があり、消費を控えるのではないかと。
		百貨店 (総務担当)	・プレミアムフライデー等、景気が復調するための刺激策が不調につき、今後も盛り上がり欠けるムードが続く。
		百貨店 (総務担当)	・円安や株高の影響もあり、免税や高額品売上が順調に推移しているが、商品別売上はムラがあり、全体としての充実感に欠ける。
		スーパー (店長)	・客単価は上がっているものの、買上点数が増えておらず、3か月前と変化がない。
		スーパー (店長)	・客数が増加する与件がない。
		コンビニ (店長)	・直近3か月で言えば、天候不順の影響か、時期の割に売上の伸びが悪いが、全般的にはこう着状態にある。
		一般レストラン (経営者)	・客の様子を見る限り、購買意欲がほとんど見られない。店の前を通過することがほとんどで、商店街も同じ傾向である。
		都市型ホテル (経営者)	・訪日外国人客は、よほどのことがない限り、東京オリンピックまでは順調にいく。
		旅行代理店 (支店長)	・海外旅行の申込は前年と比べて増加傾向にあるものの、ヨーロッパのテロ事件の影響で取消等も発生しており、現状維持といったところである。
	通信会社 (営業担当)	・主要商品の利用が客に浸透したこともあり、全体の景気の底上げがないと、大幅には増えない。	
	やや悪くなる	一般小売店〔食品〕 (店長)	・株式市況等は比較的好調のようだが、一般市民の生活物資、当店のような食品小売部門には明るさがみられない。
百貨店 (総務経理担当)		・本来の客層であるショップは概ね好調だが、入店時間のピークが夕方へシフトしない点が気になる。	
高級レストラン (副店長)		・5月後半からやや来客数が落ちてきている。ただ、今年は猛暑の予想なので、高齢客が多い当店にとっては痛手である。	
一般レストラン (経営者)		・6～7月は例年暑くなってくる時期なので、客が減少する。暑さに慣れてくれば、それなりに客が多く来るようになる。	
設計事務所 (所長)		・新規計画の話が聞こえてこない。	
悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・ボーナスが減ったという客の声が多い。	
企業 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	建設業 (営業担当)	・仕事量が増加傾向にある。
		卸売業〔機械器具〕 (従業員)	・発注状況が動き出しているため、夏に向けて今期第一弾の受注が期待できる。
		卸売業〔機械器具〕 (営業担当)	・受注済みの仕事の納入時期になるので、やや良くなる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕 (営業担当)	・状況にもよるが、最低賃金上昇に伴い、受注金額を上げてもらう流れに話を持って行きやすくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	印刷業・製本業（営業担当）	・今年は例年とは違う動きをしているようにみえる。
		建設業（営業担当）	・新規受注が伸びていない。
		輸送業（従業員）	・大きな動きはないと見込んでいる。
		通信業（営業担当）	・米国の政治情勢が不透明であり、経済面への影響が見えてこない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・3月期決算の速報がほぼ出そろい、まだら模様ではあるものの、建設や自動車等を中心に強めの数字が示されている。また、半導体市況の改善から、関連業種も堅調となっている。ただし、先行きについては慎重な見方が継続していることから、変わらない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・政治、経済、為替などすべてがこう着状態なため、上にも下にも動きづらい状況である。
		不動産業（企画担当）	・地価の上昇傾向が続いている。今後も企業不動産の流動化に注目したい。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・インバウンドは、日本全体では増加するが、当地は頭打ちである。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・特筆すべき変化はない。
		経営コンサルタント	・株価やドルも一進一退しているため先が読めないが、株価が少しでも上昇し、消費者の財布のひもが緩むことに期待したい。
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・人手不足の深刻化、人件費の高騰により収益環境が厳しくなっている。		
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・経済格差、人手不足、成長産業が見当たらないなど、良い材料に乏しい。
		出版業（営業担当）	・夏休みもあり、人が動く季節であるが、以前のように雑誌を買って移動時間や行楽先で読むことがなくなり、多くはインターネットに移行している。また、都議会選挙の結果もあるが、国内でも問題があり、先行きは不透明である。
		印刷業・製本業（営業担当）	・夏場は仕事が減るのが通例である。市場が動いているような報道もあるが、デフレがさらに進んでいて利益が増える見込みがない。
		印刷業・製本業（経営者）	・印刷媒体自身がSNS等に置き変わっている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・夏は業界全体が低調な時期である。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・夏に向け、受注量が減ることも予測される。暑さにより生花の維持経費も嵩む。
	悪くなる	—	—

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	13
	商店街・一般小売店	4
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	4
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	1
	設計事務所所長・職員	1
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食料品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	6
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	3
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	19
	建設業	3
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料、鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0